

れの暮らしに少しでも心地良さを感じてもらえるよう、担当スタッフとともにサポートさせていただきます。

今年度から福島育成園は入所部と通所部、それぞれに管理者が就くことになり、職員の配置も少し変わりました。全体の体制が落ち着くまで、今しばらく時間がかかりそうですが、エリア内の管理者同士、スタッフ一同、情報共有と連携を密にし、これまで以上に柔軟な発想で描く構想のもと、充実した取り組みの実践を目指してまいりますので、どうぞご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

ビーンズ 管理者 筒井 健支



この度、地域生活援助事業所ビーンズの管理者を拝命いたしました筒井健支です。よろしくお願いいたします。

通勤寮であった地域生活支援センター(現メープル)で4年間、居宅介護事業所で9年間、地域生活援助事業所メープルで1年間の勤務を経て現在に至ります。

福島エリアでの勤務は初めてとなり、緊張や不安を感じております。ビーンズのご利用者とも初対面となるため、少しずつ関係を築いていければと思っております。

昨年度は地域生活援助事業所メープルに勤務しておりました。同じグループホームの事業所でしたが、ご利用者37名と規模が大きく、個々の生活スタイルがあり、その生活スタイルに合わせた支援を行っていました。ニーズも様々で、面談だけでは本当のニーズを引き出せないため、日頃からコミュニケーションを取るよう心がけていました。

そんなメープルでの経験を活かし、ビーンズでもご利用者一人一人とのコミュニケーションを大切に、本当のニーズを引き出せるよう、精進していきます。ここ数年は新型コロナウイルスが猛威を振るい、外出する機会が無くなってしまっています。ビーンズのご利用者は年齢層が高く、感染した場合のリスクもあります。2度感染した人もいると聞きますので、油断せずに感染対策をしっかりと取りつつ、楽しんでもらえるよう、笑顔で過ごしてもらえるような支援を考えていきたいと思っております。

近年、ビーンズでは高齢化が課題となっております。加齢に伴い、支援の方法や組み立て、工夫が必要とな

ってきております。介護サービスの活用や移行など、ご利用者にとって、どんな支援が一番良いのか、より一層検討が必要だと感じております。より良いサービスを提供できるよう、他機関とも連携しつつ、しっかり検討していこうと思います。

ご利用者の笑顔を大切に、健康で元気に過ごしてもらえるような支援を目指して精進してまいりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

ふりーすぺーすSUN 管理者 坂本 倫太郎



昨年度に引き続き、ふりーすぺーすSUN管理者を拝命いたしました坂本倫太郎です。よろしくお願いいたします。

昨年度、事業継承という形で引き継いだふりーすぺーすSUNですが、手探りの中、突き進んだ1年だったように思います。そんな1年もあっという間に感じられますが、職員・ご利用者ともに、誰1人欠けることなく、新たな4月を迎えられたこと、嬉しく思います。今年度も、大阪市育成会東成エリアの一員として元気に活動していきます。

コロナの話をすることも嫌になるくらいに、コロナ対策も、もはや標準装備。様々な制約のある中での活動は、これまでにない発想を生み出したりもしますが、やはり、これまで当たり前に行っていた活動も再開していきたいところです。

朝の体操・ウォーキング・作業活動をベースとして、皆さん明日のメニューが気になって仕方ないお昼ご飯、毎月の外出行事、季節の行事ごとを楽しみに、外部講師を招いての活動、あるいは地域の中での活動で様々な経験を積んでいただく。そうした1年を(に)のぞみます。

さて、何かで聞いたのですが「想像力の射程」という言葉。支援員にとって、とても大事なことではないかと思っています。意味合いとしては、自分の経験を元に届く想像の範囲のことですね。ご利用者の言動・行動の背景を知る・あるいは考えて行動するということにもつながるのですが、想像力の射程が長いと短いでは、支援員が行動する際の判断根拠・行動自体が変わってくると思います。支援員1人の射程が短いのであれば、他の支援員も巻き込んで、それでも足りないのならご家族様にもご協力いただいて射程を伸ばしていきたいものです。

現在、SUNは利用者8名(男女4名ずつ)ですが、